①

2026.11.18

令和８年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
北海道地域循環共生圏フォーラム

活動団体の本事業での活動テーマ

『陸の孤島が育む自然と暮らしから生まれた
自然学校を中心とした地域循環共生圏づくり』

活動地域　　：北海道石狩市浜益区
活動団体　　：浜益地域循環共生圏推進協議会
「続ふかんば」

中間支援主体：NPO法人ezorock

１．活動地域の紹介



【地域の紹介】

石狩市浜益区は、札幌市中心部から車で約90分程度の距離に位置する厚田区の北端からさらに北へ約30km、雄冬岬に至るまでの海岸に沿った地域。平成17年の合併（石狩市・厚田村・浜益村の１市２村）以前は、浜益郡浜益村といい、江戸時代からの古い歴史を持つ。幕末には荘内藩（現在の山形県鶴岡市を拠点）が陣屋を構える北方警備の拠点となり、その後、明治から昭和初期にかけてはニシン漁の千石場所として栄え、一時は人口8000人いたといわれる。ニシン漁が終わり人口が減少し、現在では人口約1000人程度となっている。

まちの産業の中心は１次産業で、特に良質な米の生産やサケやニシン、ホタテ・ウニ・タコ・ナマコなどの漁業が盛んである。また、果樹栽培も盛んであり、北海道最古の果樹園のひとつがある。道路が整備されていなかった時代では主な交通手段は船であったため、陸路を行くには、南は濃昼山道、北は増毛山道という険しい道を行かなければならず、かつては「陸の孤島」とも呼ばれていた。







2．団体の基本情報

（1）活動団体の基本情報

団体名	浜益地域循環共生圏推進協議会「続ふかんば」
活動地域	北海道石狩市浜益区

専門性・強み

＃1988年から活動していた市民団体「浜益・自然に学ぶ会」（ふかんば）の中心メンバーと一緒に、かつての活動や想いを引き継ぐ
＃世代を通した対話や技術や文化の継承が自然に生まれている
＃地域住民や関係人口が共に地域ビジョンを話し合う場づくりに参画
＃陸の孤島に守られた自然環境と文化
＃日本有数の過疎地域　＃関係人口受入

団体概要

市民団体「浜益・自然に学ぶ会」（ふかんば）は、1988 年 12 月に人と自然の共生及び地域に根差した仕事づくりを目指して設立。約 2 年間で 18 号まで機関紙「ネットワーキング浜益」を刊行し、その後活動を休止。以降、浜益地区内で地域づくりに関する様々な活動が行われてきたものの、自然との共生を切り口に多セクターが連携した取組みは展開されてこなかった。そのため本事業をきっかけに、世代を超えた新たな協議会を設置した。これまでの浜益の歴史を踏まえながら、地域循環共生圏の推進を図る。ふかんばの基本構想を広く伝え、共有されることにより、地域の環境・経済・社会への貢献と、ローカル SDGs 事業の実現を目指す。

（2）中間支援主体の基本情報

団体名	NPO法人ezorock
活動地域	北海道

専門性・強み

＃青年層の環境・地域活動への参画促進
＃石狩市浜益区の地域づくりに10年以上参画
＃石狩市浜益区に拠点を構え、大学・企業研修の受入や関係人口の送り出しを行う
＃青年層のボランティア参加から、新たな仕事づくり、地域おこし協力隊のフォローアップなど地域での暮らしに関するサポート実績がある
＃主体であり、中間支援である団体内に複数の役割と顔を持つ

団体概要

“ezorock”は、「社会を揺り動かす」という理念のもと、2000年に行われた「RISING SUN ROCK FESTIVALにおける環境対策活動」をきっかけに2001年4月に設立。青年層のネットワーク拡大とともに、北海道の地域課題に対して、若者のアイディアやパワーを届ける事業を展開。活動を通して若者が自らの人生と社会を切り開いていく機会を作り出している。東日本大震災をきっかけに、北海道各地の関係人口創出に関する事業を展開しており、オンライン・オフラインの両輪で青年層が地域づくりに参画するきっかけを生み出している。石狩市浜益区は関係人口創出のモデル地区として、拠点を構え、一次産業や地域活動などへ参画。

3．目指す地域の姿【R8当初計画】

■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

地域内外に多様な形で関わる人々と共に「陸の孤島」である地理的条件が育んできた浜益の文化と自然を生かし、エコツーリズムの促進やサステナブルな暮らしのモデル構築を目指す

■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

①大学連携などにより、関係人口を受け入れ、地域の担い手として協働すると共に分散型で事務局機能を担う仕組みづくりを行う

②「ネットワーキング浜益」を再編し、取り組み状況と併せて情報発信を行うことで地域の機運を高める

③地域内で生まれようとする事業に対して専門家のマッチングや担い手確保等サポートする体制づくり

■ローカルSDGs事業として取り組む内容

①浜益陸の孤島自然学校の設立・事業基盤づくり

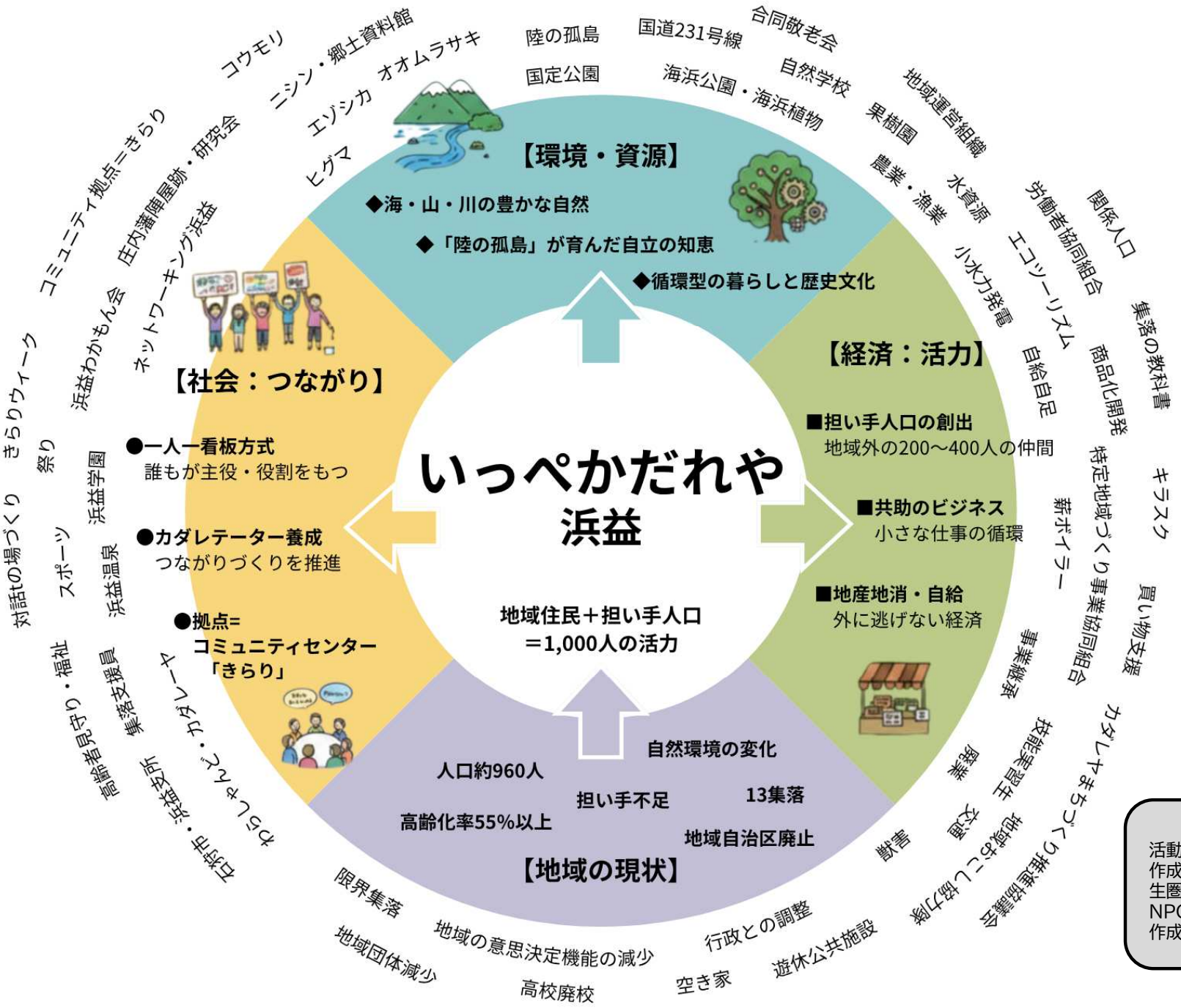
②豊富な水資源を活用した、小水力発電事業の創出

③木質バイオマス資源の活用やバイオ炭等、脱炭素事業の創出

■地域の現状と課題

急激な少子高齢化が進み、令和8年3月末日現在の人口は947人、高齢化率は約57％であらゆる分野の担い手不足が深刻さを増している。また、石狩市合併から20年を迎える2025年度末には地域自治区制度が廃止になる。行政サービスの維持や担い手の移行に関する議論が急務であり、これまで以上に地域住民が主体となった地域づくりが求められている。一方で、海水温上昇やエゾシカ個体数増加など環境要因により、地域の主要産業である漁業や農業、果樹産業にも大きな影響が表れている。そんな中、2024年度には地域住民が主体となった地域ビジョンを話し合う「いっぺかだれやの会」がスタートした。毎回地域住民、地域に関わる関係人口など30名以上が集まり、これまでの浜益とこれからの地域の姿について話し合いを進めている。「いっぺかだれや」は浜益弁で「集まって、話そう」の意味を持ち、浜益の地域づくりの中心は『対話』であることを参加者全員で確認することができた。また、浜益コミュニケーションセンター「きらり」では「いっぺかだれやの会」から生まれた取組として「きらりウィーク」が毎月実施され、住民の小さなニーズに合わせながら、集まる機会がうまれている。具体的な地域課題課題を共有しながら、他世代、他セクターが混ざり合って話し合う素地が生まれつつある。

4．地域版マンダラ



地域版マンダラ
活動地域：石狩市浜益区
作成者（団体名）：浜益地域循環共生圏推進協議会”続ふかんば”・NPO法人ezorock
作成日：2026年4月30日

5．主なローカルSDGs事業

『自然学校設立に向けた取組』

【概要】
浜益区の自然環境と暮らしに価値を見出し、これまで地域内で蓄積されてきた技術・知見を他地域へ広げることを目標に自然学校の活動展開を目指している。



【段階】 体制整備
【実施時期】 2026年4月～

【活用している自然資本・地域資源】
- きむら果樹園を中心とした札幌近郊で卓越した自然環境
- 70～80代の住民の暮らしと歴史に関する知見
- 過去の自然体験の取り組みや地域外からの関心者

【今年度の取り組み】
- 設立総会の実施（関係者間での想いの共有）
- 浜益学園ヒグマ訓練のサポートを行った
  （講師マッチング・ヒグマ毛皮など展示物の貸出
  ・当日の説明など）
- 企業、研修受入

【事業の成果や今後の展望】
- 本事業活動団体である「続ふかんば」の知見や取り組みを活かした団体として活動できるよう事業計画づくりを進める
- トライアルを重ねながら、安全に活動展開を可能にするための人材育成、スキル蓄積を進める
- 大人も子どもも自然の中で過ごせる時間を定期的に作る

『ジビエ加工施設設立に向けた取組』

【概要】
出没、被害が拡大しているエゾシカの解体および、ジビエとしての活用を目指した解体・加工施設の設立および持続可能な運営体制構築を目指している。



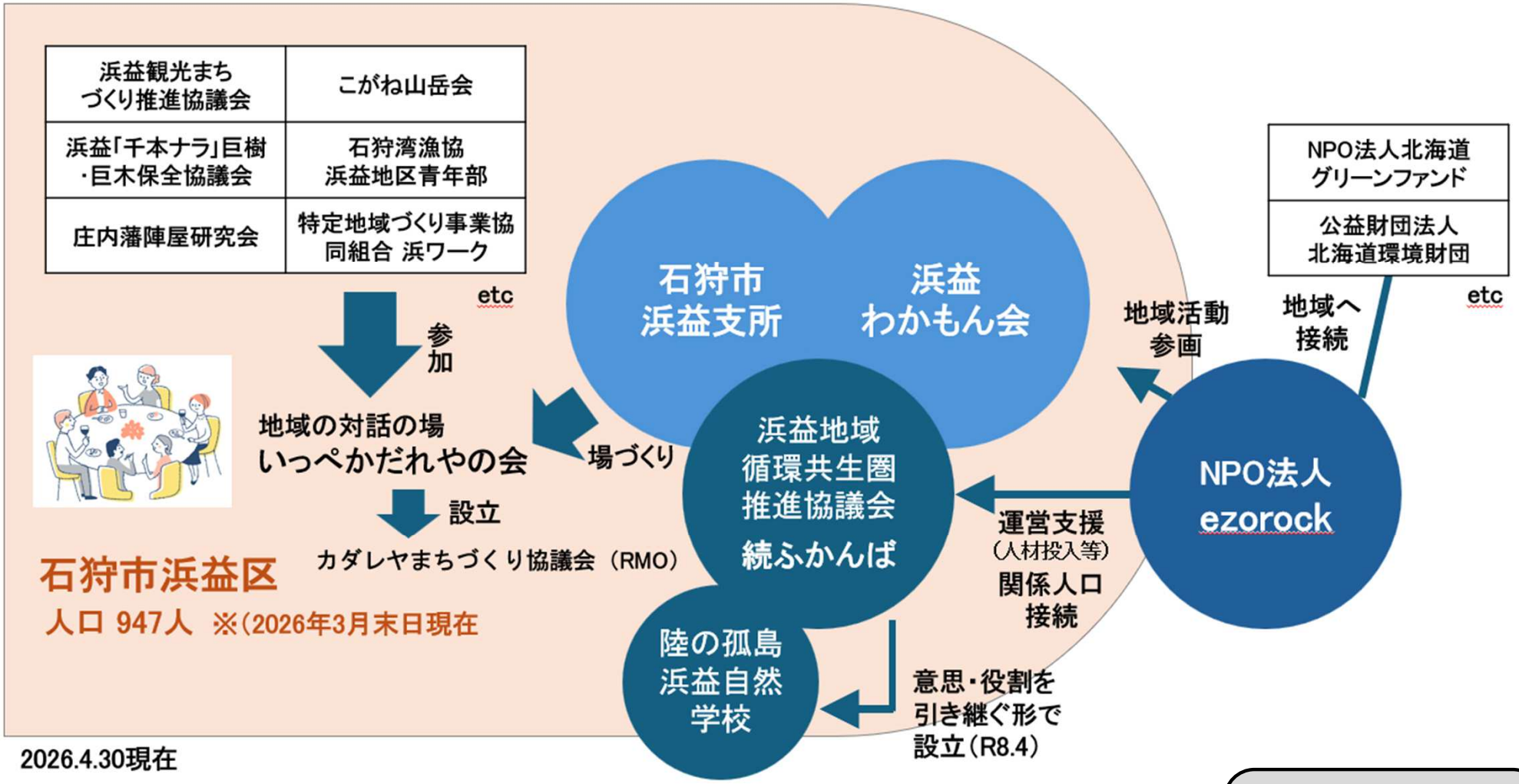
【段階】 計画・構想
【実施時期】 2026年5月～

【活用している自然資本・地域資源】
- 出没、農林業への被害が拡大しているエゾシカ
- 猟友会などハンター、解体技術を持つ地域住民
- 小水力発電など持続可能な運用のために検討したい資源

【今年度の取り組み状況】
- 湧別町での先進事例を視察した

【事業の成果や今後の展望】
- 他地域での解体、加工施設などの事例を学び、事業性と設立に向けた計画を検討する。
- 猟友会、ハンター、行政など関係者との調整を進める。
- 過年度に水量を調査し、売電ではなく自家消費へ方向転換を検討している小水力発電について、引き続き活用に向けての検証、検討を進める。
- 食肉以外のエゾシカ肉活用の検討を進める。

6．地域プラットフォームの体制図



地域プラットフォーム
活動地域：石狩市浜益区
作成者（団体名）：浜益地域循環共生圏推進協議会”続ふかんば”・NPO法人ezorock
作成日：2026年4月30日

7．活動のふりかえり

■今年度当初に設定した状態目標

① ふかんばの基本構想を引き継ぎ、実際に浜益の自然環境を元にした人材育成を行う「浜益陸の孤島自然学校」が設立され、活動できる体制や基盤が整っている
② いっぺかだれやの会が継続され、今後の地域づくりの中心を担う地域運営組織が設立されている
③ 脱炭素化事業推進に向けて、浜益の自然資源・地域資源を活用した新たなSDGs事業のタネができている

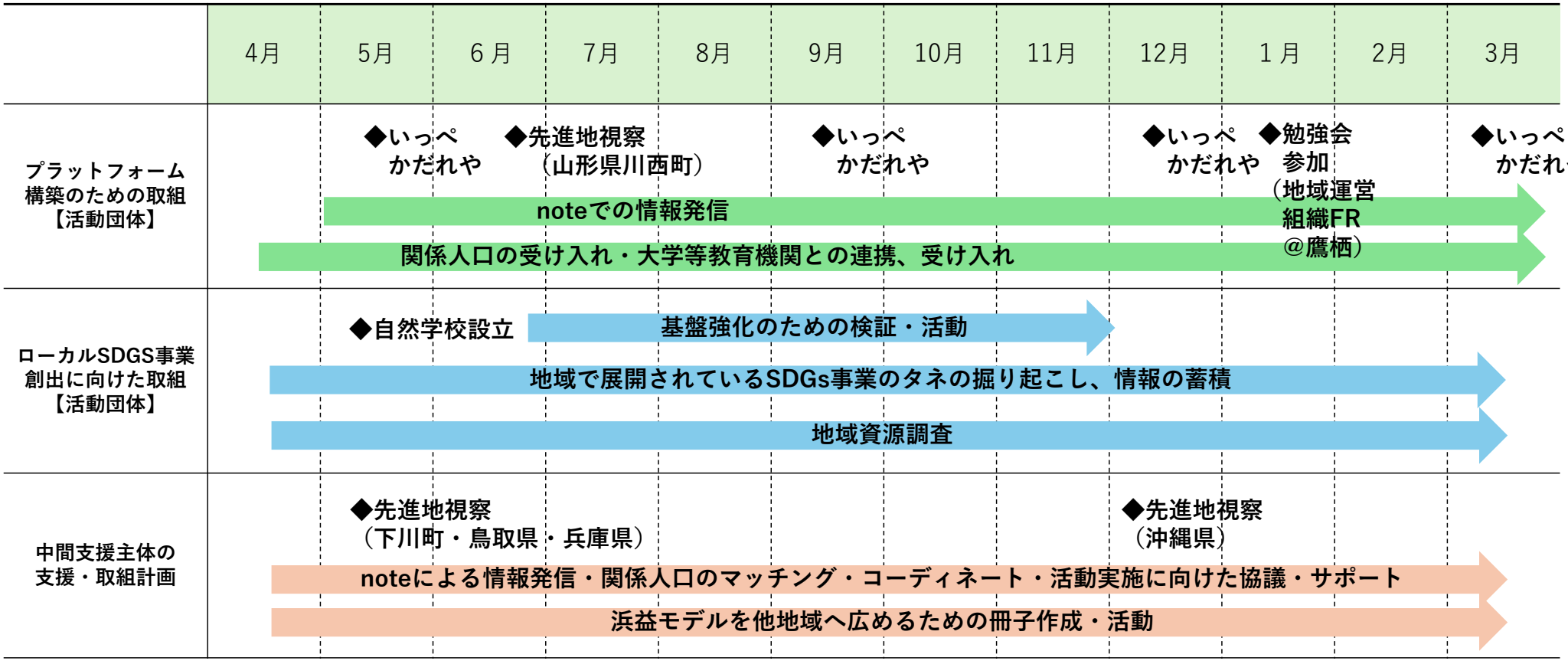
■今年度の活動のふりかえり

地域プラットフォームづくりやローカルSDGs事業創出を通じて得た「気づき・発見」「団体自身の変化（意識や視点、技術等）」 「新たに認識した課題」等についてご記入ください。

- 浜益陸の孤島自然学校が設立され、子ども向けのヒグマ学習などで地域内の自然環境について伝えることができた。今後、大人も子どもも浜益の自然環境の中で、生命の大切さや豊かさを感じることができる定期的な場づくりを行っていく。
- いっぺかだれやの会が定期的に実施されており、地域内での情報共有の場になっている。また、カダレヤまちづくり協議会を中心に、地域運営組織となる一般社団法人の設立を目指し、地域内の合意形成を図っている。コミュニティセンターきらりでは、地域住民によってカダレテーター養成講座やきらりウィークが展開され、他地域の事例も学びながら自主的なまちづくりの機運が高まっていると感じている。その中で、自然環境や脱炭素化などに関する取組みへの関心は他の課題に比較すると高くない。差し迫る地域課題に対し、より地域循環の視点を盛り込めるように当協議会および自然学校の活動を展開していく必要がある。

活動・支援スケジュール

■スケジュール



備考（補足説明など必要な場合は記載）